

名誉教授称号授与式の挙

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙

お知らせ

・「ビジュアルブック」及び北大グッズの制作について





名誉教授称号授与式

1 国際連携研究教育局（GI-CoRE）を核とする研究・教育体制の改革について

全学ニュース

- 3 名誉教授称号授与式の挙
- 3 北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙
- 4 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
- 5 新渡戸スクール「開校式」を挙
- 6 総長室事業推進経費による教育改革に係る研究成果発表ワークショップを開
- 6 「ネパール大地震 緊急募金」を施
- 7 北大フロンティア基金

部局ニュース

- 9 教育学研究院でFD研修を施
- 9 獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開
- 10 函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を施
- 10 北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交
- 11 看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを施
- 12 環境健康科学研究教育センターがWHO Collaborating Centre（研究協力機関）に指
- 12 環境健康科学研究教育センターが研究交流会を開
- 13 附属図書館北図書館西棟オープン・2015年度新渡戸カレッジ開講記念講演会「グローバルキャリアを目指す大学での学び方」を開
- 14 日・EUフレンドシップウィークイベント「附属図書館留学応援講演会：IELTSで欧米留学を完全攻略せよ!!」を開

お知らせ

- 15 「ビジュアルブック」及び北大グッズの制作について

諸会議の開催状況 16

学内規程 16

表敬訪問 17

人事 19

- 20 新任教授紹介
- 20 新任部課長等紹介

訃報

- 21 名誉教授 福永 有利 氏
- 21 名誉教授 盛田 フミ 氏
- 22 准教授 井上 純一 氏

資料

- 23 在籍学生数（平成27年5月1日現在）
- 25 平成27年度外国人留学生数（平成27年5月1日現在）
- 26 平成27年度国別外国人留学生数（平成27年5月1日現在）
- 27 平成26年度卒業・修了者の就職等状況一覧



獣医学部
「地方自治体等合同就職説明会」



北海道日本ハムファイターズが
ひまわり分校の子どもたちと交流



北海道大学病院
看護週間－「看護の日の夕べ」



附属図書館
日・EUフレンドシップウィークイベント

表紙：北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式（関連記事3頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑦ 初夏の湿原を駆ける

国際連携研究教育局（GI-CoRE）を核とする研究・教育体制の改革について

理事・副学長 やすだ かずのり 安田 和則



アカデミアは国境を超越した存在でなければなりません。近年、世界の大学の研究・教育はボーダーレスに行われており、有力大学間の連携研究は一般化しています。また新興国の基幹大学は国家の支援を受けて強力にグローバル化を進め、研究・教育における競争力を急速に高めています。そのような状況の中、我が北大の状況はどうでしょうか？ 研究・教育に関する様々な国際指標値を見る限りその低下が続いており、北大人として心が痛みます。勿論、指標値そのものを追いかけていこうとは思いません。しかしこれらの指標は、優れた研究あるいは教育を行ってれば必ずとそれが反映されるものであるが故に、事態は深刻です。

北大の個々の研究者は世界のトップを目指して研究を行っています。しかし、一人がばらばらに行う研究はトップレベルに達するまでに、またその成果が世界から評価されるまでに時間がかかります。研究者個人の努力はもちろん必要ですが、少なくとも北大の研究者組織は、グローバルな組織対組織の協働・連携関係を構築し、それに優秀な研究者個人を巻き込んでいく努力を行うべきです。昨年も書かせていただいたように、研究組織として重要なことは、「時流に流されない普遍的な知」の探求を行う一方で、「時を得た爆発的な知」の創造をバランス良く押し進めることです。組織対組織のグローバルな協働・連携関係の構築は、この爆発的な知の創造を進めるに当たって必須な戦略です。教育に関しても反省があります。北大は組織として、世界レベルの教育をこれまで十分に行ってきたのでしょうか？ 個々の教員の興味や専門の単純加算が教育内容の全てになってはいなかったのでしょうか？ 今後は教育に関しても組織対組織のグローバルな協働・連携関係を基礎とした様々な教育リソースを有機的に動員し、教育を受ける側や国際社会のニーズに焦点を当てた教育内容の充実、そしてそれができる教育体制の再構築を行っていく必要があります。

研究と教育は表裏一体の関係にあります。今後、北大が組織として研究及び教育において世界の大学と競っていくためには、本学の知恵と総力を結集して北大の個性的な「強み」を育て、総合大学としての潜在力を引き出し、それらを有機的に結合した研究・教育体制の再構築を進める必要があります。これは、言うは易く行うのは極めて困難です。やり方も一通りではないでしょう。北大はその一つの実行例を、国際連携研究教育局（GI-CoRE）において作り上げつつあります。GI-CoREは総長のリーダーシップの下で、本学の強みである研究者グループ（組織）が、本学教員として招致された世界トップレベルの研究教育ユニット（組織）と先端的国際連携研究を推進し、またそこで得られた研究成果や集められた様々な教育リソースを世界水準の大学院教育に展開するためのプラットフォームです。

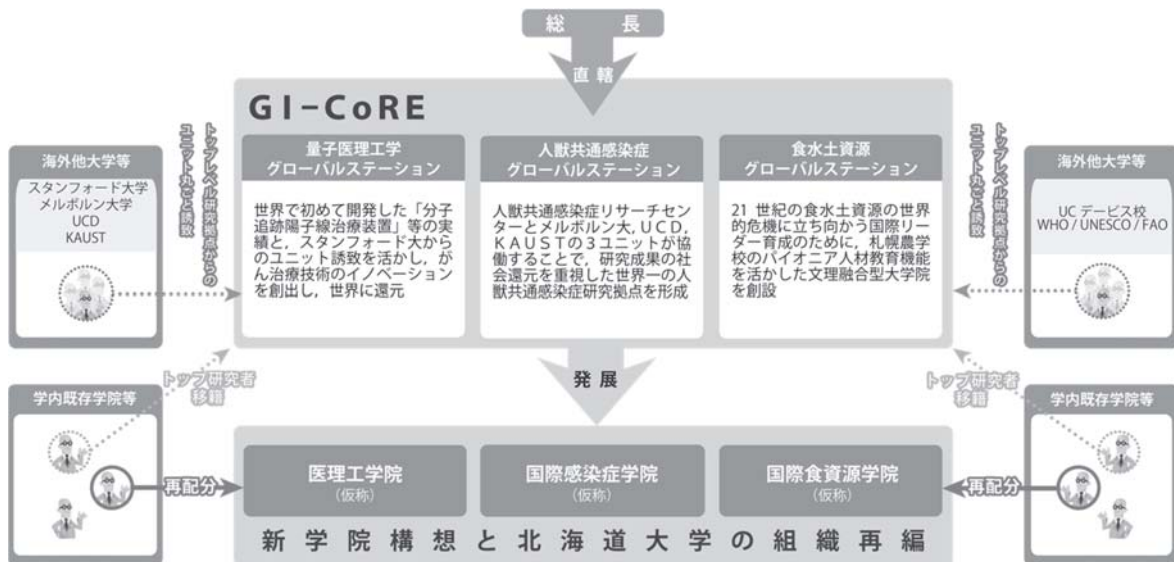
現在、GI-CoREには量子医理工学グローバルステーションと人獣共通感染症グローバルステーションが設置されており、ここにはスタンフォード大学、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ王立科学技術大学からの研究ユニットを招致しました。そして、食水土資源グローバルステーションが第3のステーションとして立ち上げられつつあります。先行する2つのステーションでは、早くも直接的効果が現れ始めています。例えば、研究領域において、各組織における弱点が相補され、文字通り世界トップレベルの研究拠点がこの北海道大学に出現しました。その拠点では、予想を超える速さで新しい発見や知的財産の創造がなされ、国際共著論文が次々と世界のトップジャーナルに投稿されており、今後は高被引用論文の増加につながるでしょう。また研究に関する国際ネットワークの拡大も見られます。研究成果の教育への展開は今後の課題ですが、各ステーションに招聘した教員は熱心に教育にも参画しており、国際水準の教育は既に始まっています。学生にとっては国内にしながら世界トップレベルの教育を受けることができ、英語を基盤とする企画・討論能力

や論文作成能力の向上が図られています。また連携大学との共催サマースクールがアジア諸国に大きなインパクトを与えた事例もあります。これらは今後、世界トップレベル大学への留学機会の増加や、外国人留学生の組織的・戦略的受入に良い効果を与えるものと期待されます。

これらの研究・教育の実績を基盤として、GI-CoREステーションに関連する部局では、従来の教育組織を改組して国際大学院の設置を進めています。近い将来に医理工学院、国際感染症学院、国際食資源学院（すべて仮称）などが設置されることとなりますが、そこでは領域横断型国際的カリキュラムに基づいた教育が展開されることとなります。さらに中長期的には、GI-CoREで試行され成功した様々な研究・教育改革の取り組みは、北大の中で一般化していくでしょう。こうして、最終的に北大は世界の頭脳が行き交う大学となり、イノベーションの創出やその社会実

装を通して、本邦をも含む世界の課題解決を国際社会との連携・協働の下で推進できる大学へと発展していくことが期待されます。

現在、北大には部局の壁を越えて強みを伸ばそうとする様々な構想があると認識しています。上述したGI-CoREステーションの趣旨に合致する研究・教育改革構想を練っておられる部局には、ぜひその構想をお聞かせいただきたいと思えます。今後、北海道大学は北大全体の研究・教育改革の核となるこのGI-CoREを様々な角度から支援していきます。このGI-CoREという新たな研究・教育改革の仕組みは、他の国立大学にとつての範になる機能強化策の一つとして国から高い評価を受けており、運営費交付金や補助金等による支援がなされているという側面を理解することも重要です。



GI-CoREとは

国際連携研究教育局 Global Institution for Collaborative Research and Education (GI-CoRE) は、北海道大学の強みや特色を活かした分野で、世界トップレベルの研究者と学内の教員を結集し、教育研究に集中できる環境を構築するための、総長直轄の教員組織として、2014年4月に始まりました。

本取り組みでは、現在、量子医理工学、人獣共通感染症、食水土資源の3つのグローバルステーションを開設しています。

研究費等も重点的に配置され、各分野における世界有数の研究ユニットを招致することで、組織的・持続的な共同研究・教育体制を整備しています。

2017年には、それぞれの分野で英語を使用言語とし異分野連携の教育を行う「国際大学院」を設置する予定です。

これらの活動を通して、北海道大学は、創設以来教育研究の理念として掲げてきた「フロンティア精神」、 「国際性の涵養」、 「全人教育」、 「実学の重視」を元に、21世紀における頭脳循環の拠点として発展することを目指していきます。

■全学ニュース

名誉教授称号授与式の挙行



名誉教授授与式出席者一同

先に本学名誉教授に決定された方々(39名)に対する称号授与式を、6月3日(水)、学术交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された21名の名誉教授一人ひとりに、山口佳三総長が称号を授与した後、長年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムに

おいて、道内在住の名誉教授と部局長・役員との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が地球環境科学研究院、メディア・コミュニケーション研究院を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、部局長、役員合わせて62名が出席され、山田義裕メディア・コミュニケーション研究院長の開会の辞に始まり、山口総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあっ

た後、三上 隆理事・副学長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、久保川厚地球環境科学研究院長の閉会の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

(総務企画部人事課厚生労務室、環境科学院・地球環境科学研究院、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院)

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を挙行



授与式記念写真

6月3日(水)、事務局大会議室において北海道大学ユニバーシティプロフェッサー称号授与式を執り行い、役員、部局長等参列の下、山口佳三総長から鈴木 章名誉教授に記念楯が授与されました。

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、本年1月に創設したものであり、世界的に極めて顕著な教育研究

業績を挙げた方のうち、長期にわたり本学の教育研究の進展に寄与すると認められる方へ称号を授与します。

この度、本制度の第1号として北海道大学ユニバーシティプロフェッサーの称号を授与された鈴木名誉教授は、本学初のノーベル賞受賞者であり、現在も本学名誉教授として国内外において精力的に本学の教育研究の推進にお力添えいただいています。

授与式では鈴木名誉教授から「称号を最初にいただく機会を得たことは嬉しく、名誉なこと」「これからも若い研究者や学生と議論する機会を持てたら嬉しい」とのお言葉をいただきました。

(総務企画部人事課)

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

5月19日（火）及び6月2日（火）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、山口佳三総長から被授与者に記念楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー制度は「北海道大学

創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、本年1月に創設したものであり、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが期待できる本学

の教員等へ称号を授与します。

なお、称号を授与された方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所 属	職名	氏 名	授与期間
理学研究院	教授	坂本 尚義	平成27年 4月1日～平成30年 3月31日
先端生命科学研究院	教授	グン 劍萍	平成27年 4月1日～平成30年 3月31日
医学研究科，国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	白土 博樹	平成27年 4月1日～平成30年 3月31日
国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	デイビット チャールズ ジャクソン	平成27年 4月1日～平成30年 3月31日
国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	ロレーナ エリザベス ブラウン	平成27年 4月1日～平成30年 3月31日
国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	ウィリアム ウォームスリー ホール	平成27年 4月1日～平成29年 3月31日
国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	アーナブ ペイン	平成27年 4月1日～平成29年 6月30日
国際連携研究教育局(GI-CoRE)	教授	エリザベス ルイーズ ハートランド	平成27年 6月1日～平成30年 5月31日



記念写真（平成27年5月19日）



記念写真（平成27年6月2日）

新渡戸スクール「開校式」を挙行

本年度から開始された大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」の開校式を、5月9日（土）午後1時半から、情報教育館スタジオ型多目的中講義室で執り行いました。

本スクール生の募集は4月に行われ、ほぼすべての研究科・学院等から118名の入校希望者があり、厳正な選考の結果、第1期生となる64名の入校が決まりました。

開校式には、山口佳三校長（総長）、石山 喬北海道大学連合同窓会会長、Jeff Streeter英国大使館文化参事官、新田孝彦校長代理（理事・副学長）をはじめ、理事、副学長、研究科長・学院長等が出席するとともに、新渡戸スクールメンター予定者、及びスクール生が参加しました。

式典では、まず山口校長から「第1期生としての誇りをもち、新渡戸ス

クールにおける学びが有意義なものとなること、さらに、新渡戸スクールの経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願います」との告辞がスクール生に対してありました。

次に、来賓の石山連合同窓会会長から祝辞があり、「グローバル化した経済社会においてスクール生が国際社会のリーダーとして活躍することを期待します」とのメッセージをいただきました。続いて、来賓のStreeter氏より“Global Skills for a Globalised World（グローバル化した世界のためのグローバルなスキル）”と題して、国際社会において必要とされる能力やスキルについて講演がありました。

式典終了後、開校特別プログラムの第1部として、まず、山下正兼副校長

（副学長）から、学部と大学院の教育目的の違いや産業界が求める人材像の紹介を通じて、新渡戸スクールにおける学びの意義について説明がありました。その後、スクール生に対し、本学大学院修了者が対話を通じ社会経験を伝えることを目的として設けられた、4人のメンター予定者による講演が行われ、スクール生は、先輩たちの体験を踏まえた話に大いに刺激を受けました。

開校特別プログラムの第2部ではワークショップがあり、スクール生は、新渡戸スクールで学ぶにあたり、現在抱えている問題とその解決策に関して意見交換を行いました。本ワークショップにより、今後の学習へのモチベーションが高まるとともに、互いに交流を深めることができました。

（学務部学務企画課）



山口校長による開校挨拶



Streeter氏による講演



開校式で講演を聞く参列者



付箋を使ったワークショップ

総長室事業推進経費による教育改革に係る研究成果発表ワークショップを開催

5月19日（火）、21日（木）の2日間にわたり、高等教育推進機構S講義棟において、本学教職員を対象としたワークショップを開催しました。

本ワークショップは、平成26年度に教育改革室が公募した総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」で採択されたプロジェクト研究の成果を全学的に共有し、より広く活用することを目指して昨年度に引き続き開催したものです。各プロジェクト研究の代表者による研究報告と併せて、参加者全員が全学教育、学部教育及び大学院教育の改善について議論する時間も設け、全学FDとして位置付けました。

当日は本ワークショップの発案者である新田孝彦理事・副学長の挨拶に始まり、2日間で合計10名の研究代表者がそれぞれの研究成果について、各自8分の発表時間を使い、充実した内容

の発表を行いました。また、喜多村昇高等教育推進機構副機構長から「教育改革のために今求められるプロジェクト研究とは」と題して、当事業によるプロジェクト研究の実績や今求められている研究内容について講演がありました。

延べ66名の教職員が参加し、発表内容や本学の教育に関する課題などについて活発な質疑応答及び議論が行われました。

総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」については、今



新田理事・副学長の挨拶

年度の学内公募は終了しましたが、本事業は今後も継続して実施する予定です。過去の報告書は本学ウェブサイト (<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/>) に掲載していますが、その他不明な点は以下担当にお問い合わせください。

◆学務部学務企画課教育支援担当

内線：5567

E-mail：suishin@academic.hokudai.ac.jp

(高等教育推進機構)



会場の様子

「ネパール大地震 緊急募金」を実施

4月25日（土）に国の中部を襲った地震の被害にみまわれたネパールに対して、同国から来日して教育や研究活動に携わっている研究者を中心とした「北海道大学・ネパールを支援する会」により5月20日（水）から5月29日（金）の間、緊急募金活動が行われました。

この募金活動に際し、各部署及び北海道大学生協同組合の店舗に募金箱

を設置しました。その結果、多くの教職員、学生の皆様から540,650円という多額の募金をいただきました。

皆様からお預かりした募金は、被災地の復興と震災被害者の支援のため、「ネパール大使館Earthquake Fund」へ送金しました。

今回の募金活動の代表からのお礼の言葉は以下のとおりです。

この度はネパール大地震に際し、募金活動に温かく応じてくださり大変感謝申し上げます。短期間にもかかわらず各方面より多くのご支援をいただき、ネパール人研究者一同、皆様にお礼申し上げます。皆様からいただきました募金はネパール大使館に送り、現地の復興に活用させていただきます。甚大な被害により復旧にはまだまだ時間がかかります。今後のご支援も重ねてお願いいたします。

北海道大学・ネパールを支援する会

代表 ゴータム ピタンバル

(国際本部国際交流課)

北海道大学・ネパールを支援する会

代表 創成研究機構研究支援室
代表補佐 薬学研究院
医学研究科
保健科学研究院
低温科学研究所
低温科学研究所

ゴータム ピタンバル
セレストア アジャヤラム
ネパール プラバ
シュレスト ロジート
クンワル バガワティ
ポカレル アンバリッシュ



被害状況の説明資料



創成研究機構の皆さん



ゴータム准教授



北大生協店舗にて

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	17,064件	3,007,823,060円
基金累計額（5月31日現在）	教職員の寄附率	34.2%（1,341件/3,921人）

5月のご寄附状況

法人等2社、個人116名の方々から4,472,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

伊藤組土建株式会社、柏楊印刷株式会社

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青塚 祐一	明石 恵実	浅野 賢二	石川 裕一	板本 孝治	伊藤 和彦	伊藤 洋
入澤 秀次	岩永 政義	上田 利文	上田 雅敏	内海 登	大内 継也	岡本 康幸	奥田 詠子
小澤 勝光	小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	加賀 幸彦	香川 恒雄	笠原 憲一	堅田 久利
金川 眞行	金子豊三郎	河本 充司	北野 溥	木村 純	久米 尚雄	栗林 道夫	國府田宏巳
小林 兼則	小林 好	近藤 繁俊	斎藤 大地	斉藤 久	佐藤 哲也	佐藤 伴音	三升畑元基
柴田 勲	清水 智之	清水池義治	庄村 喬	須田 孝徳	瀬名波栄潤	曾我 時久	平良 正哉
篁 ゆかり	高山佐代子	田中 秀佳	玉木 規夫	築田 和人	土家 琢磨	津曲 敏郎	出口 達也
寺澤 陸	東藤 和奈	戸坂 隆	戸田 信之	豊田 威信	鳥潟 肇	内藤 直樹	中垣 克三
中村 淳一	西田 信也	畑 敏章	原島 直美	稗田 義雄	福田 文治	船津 保浩	細川 嘉一
本間 修司	本間 昭一	増山 邦彦	松井 恭行	松崎 貞夫	水谷 洋一	南 隆	森 昭憲
安延 義弘	矢次 晴香	山内 隆嗣	吉田 広志				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（個人）

石川 裕一、上田 雅敏、佐藤 哲也、津曲 敏郎

感謝状の贈呈



津曲敏郎 様 (平成27年6月2日)



伊藤組土建株式会社 様 (平成27年6月10日)

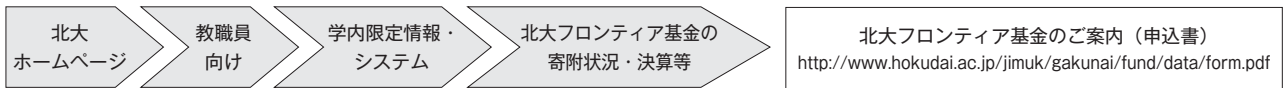


日本精工株式会社 様 (平成27年6月18日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

■ 部局ニュース

教育学研究院でFD研修を実施

教育学研究院では、5月22日（金）に教育学部会議室において平成27年度FD研究会を実施しました。今回のFDでは、小内 透教育学研究院長から「北海道大学の機能強化の取り組みについて」と題しての説明があり、教職員26名が参加しました。

内容は「近年の大学改革の流れ」、「大学力強化推進構想」、「高等教育推進機構の再編」、「北海道大学近未

来戦略150」、「スーパーグローバル大学創成支援事業」、「様々な教育改革の取り組み」、「第3期中期目標・中期計画期間における運営費交付金」、「部局の課題 各種改革への対応と第3期中期目標・中期計画」についてで、概ね1時間ほどの研修となりました。ややもすると教育・研究・日常業務に没頭しがちな教職員にとって情報過少となりがちな教育施策をはじめ、

劇的に変化し続けている本学の諸施策についての情報が得られ、大変意義深い研修となりました。

説明の後は、教職員からの質問時間を設け、活発な意見交換が行われ、今後の課題が見い出せた教職員もいたようでした。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）



小内研究院長による説明



熱心に聞き入る教職員



資料「北海道大学の機能強化の取り組み」

獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催

5月12日（火）午後1時から4時まで、獣医学部4～6年生を中心に、本学部・研究科の学生を対象とした「地方自治体等合同就職説明会」を、獣医学部主催により開催しました。本説明会は、地方自治体等の獣医師職を目指す本学部・研究科の学生へ円滑に情報を提供することを目的とし、地方自治体等が個別に来学して実施していた説

明会を集約し、平成23年度より開催しているものです。

本年度5度目の試みであり、今回は全国各地から過去最高の計31の地方自治体・団体の出席をいただきました。当日は学部4～6年生の授業を休講にしたこともあり、学部4年生から博士課程4年生まで40名の学生が個別ブースにて熱心に説明を聞きました。参加

自治体等にも大変好評で、来年以降も実施してほしい旨要望を受けました。

今後とも、より一層のキャリア支援体制の充実・強化を図るため、実施内容等について改めて検討していく予定です。

（獣医学研究科・獣医学部）



熱心に説明を聞く学生

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

5月21日（木）に、函館キャンパスにおいて「春のキャンパス一斉清掃」を実施しました。

今回の「春のキャンパス一斉清掃」は5月20日（水）に行う予定でしたが、当日はあいにくの雨となり、翌日の21日（木）に順延しました。

参加人数は、学生・教職員を合わせ

て約150名となり、日程変更があったにも関わらず、多くの学生・教職員が参加しました。

収集されたごみ等は、一般ごみ・産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）・木の枝等を合わせて約4㎡となりました。

函館キャンパスでは毎年春と秋に年

2回「キャンパス一斉清掃」を行っており、次回は9月下旬を予定しています。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



清掃作業を行う教員と学生



清掃作業を行う職員



協力し合いながらの清掃作業

北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流

病気と闘う子どもたちを勇気づけるため、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督と選手によるひまわり分校訪問が、5月11日（月）に行われました。

ひまわり分校への訪問は院内学級時代を通じて9回目を数え、毎年、入院中の子どもたちが大変楽しみにしているイベントです。今年は、栗山監督のほか、大野奨太選手会長、鍵谷陽平選手、西川遥輝選手、岡 大海選手、上沢直之選手の6名が来院されました。

監督と選手は、寶金清博病院長を訪問した後、本院6階の運動療法室で、ひまわり分校の子どもたちからのインタビューやキャッチボールなどを通して交流を深めました。

また、病室から出られない子どもたちのために、小児科病棟に足を運び、監督と選手が病室を1室ずつ回って励ましました。子どもたちはベッドサイドやナースステーション前で一緒に写真を撮るなど、つかの間の楽しいひと時を過ごしました。

（北海道大学病院）



病院長室訪問の様子



サインをもらう子どもたち



子どもたちからの質問に答える上沢選手



選手とのキャッチボール

看護週間ー「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）を含む1週間は「看護週間」として制定されています。今年も本院では、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しが行われました。

5月12日（火）にはふれあい看護体験が行われ、札幌市内及び近郊の高校生が看護師とともに、病棟や外来で実際の看護業務を体験しました。

同日夜には、「第25回看護の日の夕べ」が寶金清博病院長の挨拶で開会し、医学生有志によるアンサンブルコ

ンサートが行われました。誰もが知っているなじみのある曲が演目となっており、最後は、「花は咲く」を会場とともに大合唱し、大変盛り上がりしました。「第25回看護の日の夕べ」は、盛況の中、川畑いづみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。このミニコンサートの様子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通じて、病室の無料チャンネルでテレビ放映されました。

看護週間である5月11日（月）から

15日（金）までの間、1階アメニティホールにて各部署紹介の展示を行い、医科外来ホールで看護・くすり・栄養・歯の衛生・運動療法等の相談コーナーを設置しました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で25回目を数えますが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。

（北海道大学病院）



開会の挨拶をする寶金病院長



医学生有志による演奏



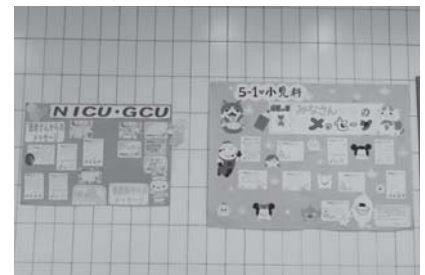
医学生有志と会場参加者の合唱



閉会の挨拶をする川畑看護部長



各部署の紹介展示



患者さんから看護師へのメッセージ

環境健康科学研究教育センターが WHO Collaborating Centre (研究協力機関) に指定

平成27年4月22日付けをもって、環境健康科学研究教育センターは、世界保健機関 (WHO) の研究協力機関に正式に指定されました。

WHO研究協力センターは、保健分野の研究を通じてWHOの活動を支える施設で、世界で700機関、国内では国立保健医療科学院など35機関が指定されていますが、日本ではこれまで「環境化学物質のハザードと健康障害予防」に関する調査研究で専門的に協力する施設の指定は全くありませんでした。今回の指定は、当センターがこれまで実施してきた長年の環境と健康に関する疫学研究の実績が認められたものです。たとえばPCBやダイオキシン類、あるいは農薬、有機フッ素化合物などの環境化学物質の汚染が広がる中で、特に曝露影響を受けやすい集団 (子どもや妊婦、高齢者、労働者など) への影響を世界的な規模で検討する必要性が高まっている現状から、今後、当センターはWHOと協力して国際的な研究協力体制の構築に重要な役割を果たすことになります。

具体的には、当センター内にある「WHO Collaborating Centre for Environmental Health and Prevention

of Chemical Hazards(環境と健康分野における化学物質による健康被害の予防に関するWHO研究協力センター)」

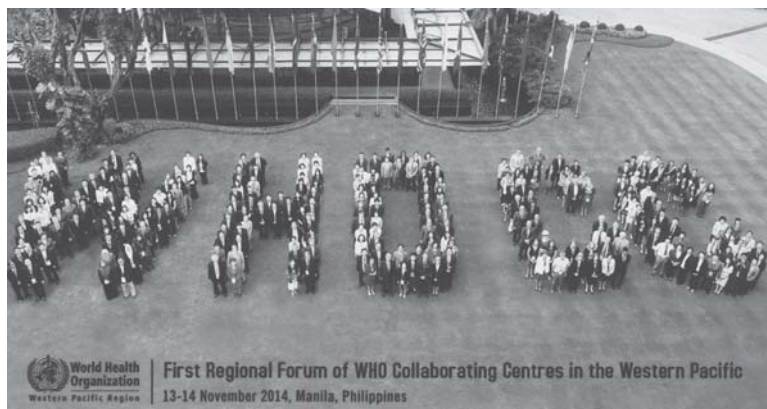
(directorは岸 玲子 環境健康科学研究教育センター特別招聘教授) では、今後WHOと情報の交換や研究協力を行い、①WHOの要請で環境化学物質の世界的なハザードの研究や健康障害予防のために特定の地域や国に研究者を派遣、②研究成果に基づくガイドラインやマニュアル、研修モジュール等の資料作成、③特に脆弱な人々のリスクや健康障害予防に関する知識向上のための研修コースなどを企画する

活動でWHOを支援していくことになります。

WHO (ジュネーブにある本部やマニラにある西太平洋事務局) との協力を進める中で、研究者や学生など、多くの関係者が世界的な視点で研究教育活動を実施することに関わりますので、本学にとっても大いに役立つことが期待されます。

なお、研究協力センターの指定期間は本年4月から平成31年4月までの4年間で更新が期待されています。

(環境健康科学研究教育センター)



First Regional Forum of WHO Collaborating Centres in the Western Pacificでの会議参加者 (2014年11月)

環境健康科学研究教育センターが研究交流会を開催

5月19日 (火)・20日 (水) の2日間、スウェーデンのウプサラ大学から、Dan Norback教授と博士課程所属のJuan Wangさんが訪問され、環境と健康に関する研究交流会をファカルティハウス「エンレイソウ」にて開催しました。

Norback教授は室内空気質の健康影響に関する研究がご専門で、この研究分野での第一人者です。これまでも平成22年・23年と来札され、今回の研究交流は3回目です。

1日目は室内空気質が及ぼす健康への影響をテーマに、Norback教授から省エネルギーと集合住宅におけるシックハウス症候群との関連や、外気温とダンプネス (過度の湿気) や真菌との関係など、最新のスウェーデンの研究についてご講演いただきました。Wangさんからは、中国における自宅環境と子どもの喘息やアレルギーに関する研究成果について、ご発表いただきました。また、北海学園大学の増地あゆみ教授 (心理学) から室内空気に

関するリスクコミュニケーションについて、北海道立衛生研究所の武内伸治主査 (有害物資) から、室内空気中やハウスダストに含まれる、可塑剤と有機リン系難燃剤の測定結果についてプレゼンテーションがありました。当センターからも、ハウスダスト中の可塑剤や難燃剤などの半揮発性化学物質と、居住者のアレルギーの研究について報告しました。

2日目は胎児期の環境化学物質が子どもの健康に与える影響について、当

センターで行っている出生コーホート「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」研究の概要と成果の一部、環境省「子どもの健康と環境に関する

全国調査（エコチル調査）」の概要を紹介しました。

北海道立衛生研究所など学外の共同研究機関からの参加者も加わり、活発

な討論が行われた2日間となりました。

(環境健康科学研究教育センター)



Norback教授（前列左から3人目）とWangさん（同2人目）を囲んで



講演するNorback教授

附属図書館北図書館西棟オープン・2015年度新渡戸カレッジ開講記念講演会「グローバルキャリアを目指す大学での学び方」を開催

附属図書館北図書館では、4月に新棟（地上4階建て、床面積1,554.64㎡）を増築し、2階アクティブラーニングフロアや3階グローバルフロアを備えた西棟がオープンしました。そこで、この西棟の利用促進と、グローバルキャリアを目指す学生の動機付けとするため、5月8日（金）に2階フロアを会場として、新渡戸カレッジと共催した記念講演会を開催しました。

講師に新渡戸カレッジフェローである伊藤 慎氏（大塚製薬株式会社／平

成15年薬学研究科修士課程修了）をお迎えし、「グローバルキャリアを目指す大学での学び方」と題してご講演いただきました。

医薬品業界の現状や企業におけるグローバルリーダーのあり方、マネジメント等、ご自身の学生時代の反省とこれまでの社会人としての経験を踏まえた内容で、「将来（例えば10年後）、どのような仕事をしたいですか?」「なぜ、その仕事ですか?」「（どんな仕事か）具体的に調べてみました

か?」等、参加者に問いかけるような講演会でした。

講演後の質疑応答も活発に行われ、参加者の関心の深さがうかがわれました。終了後には西棟の館内ツアーも行い、特徴ある各フロアを紹介しました。参加者数は約50名、うち新渡戸カレッジ生は13名でした。

(附属図書館)



伊藤氏による講演



講演会風景

日・EUフレンドシップウィークイベント「附属図書館留学応援講演会：IELTSで欧米留学を完全攻略せよ!!」を開催

附属図書館は、北海道で唯一のEU情報センターに指定されており、EU（欧州連合）が出版する資料等の所蔵・提供を行っています。また、毎年、駐日欧州連合代表部が開催する日本とEUの交流イベント「日・EUフレンドシップウィーク」にイベント企画の参加をすることで、EUのアウトリーチ活動にも貢献しています。

本年は、5月13日（水）に高等教育推進機構N1講義室において、「附属図書館留学応援講演会：IELTSで欧米留学を完全攻略せよ!!」を開催しました。IELTSとは、TOEICやTOEFL等と同様に世界で最も広く受験されている英語能力試験の一つです。

講演会の第1部では、英国出身の留

学生であるダリン・トーマス氏（文学研究科博士後期課程3年）から日英それぞれの大学生生活経験談と、「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン（FSP：ファースト・ステップ・プログラム）」受講者である山本将隆氏（理学部2年・新渡戸カレッジ生）から英国留学等の体験談の発表がありました。

続く第2部では、日本でIELTS試験を実施している公益財団法人日本英語検定協会の安藤優也氏からIELTSの概要と試験のポイント、出題例等を紹介していただきました。講演後の質疑応答は活発に交わされ、終了後も講師3名は、参加者に囲まれて多くの質問を受けました。

当日は、学生や教職員、市民を合わせて81名の参加者があり、興味の高さがうかがえました。アンケートにおいても、「前から英国留学に興味があったが、今日の講演でより具体的に考えられてモチベーションが上がった」「留学をする意義、英国と日本の大学生活の違い、IELTSの勉強法についてたくさん得るものがあった」といった多くの感想が寄せられました。

また、4月27日（月）から5月15日（金）まで、附属図書館（本館）では、連携企画として、IELTSを紹介する図書・パネル展示を開催しました。

（附属図書館）



トーマス氏の講演



山本氏の講演



安藤氏の講演



会場の様子



図書展示

■お知らせ

「ビジュアルブック」及び北大グッズの制作について

この度、スーパーグローバル大学創成支援の経費により、キャンパス風景を四季毎に紹介する「ビジュアルブック」、及び北大グッズとしてメモ帳とポーチを制作しました。

海外への広報活動ツールとして、各種イベントや来客用、また、出張時のキャンパス紹介ブックとして活用していただきたく、ご入り用の際には、以下担当までご連絡願います。

ご参考

◆「ビジュアルブック」

本学のイメージを高めるための広報媒体。本学キャンパスが、色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパスであることを伝える。

◆北大グッズ（メモ帳とポーチ）

本学の緑豊かな美しいキャンパスを印象づけるため、構内にある樹木をモチーフとした。

連絡先) 総務企画部広報課広報・渉外担当

TEL : 011-706-2902・2610 E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

(総務企画部広報課)



「ビジュアルブック」



北大グッズのメモ帳とポーチ



構内の樹木をモチーフに

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成27年5月12日）

- 協議事項・教育研究組織等の部門等の改組について
- ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・超過勤務実績について
- ・平成26年度決算速報について
-

教育研究評議会（平成27年5月20日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- ・教育研究組織等の部門等の改組について
 - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・平成26年度北海道大学外国人留学生後援会の決算について
-

役員会（平成27年5月25日）

- 議 案・教育研究組織等の部門等の改組について
- ・諸規則の一部改正について
 - ・共同利用・共同研究拠点の認定申請について
 - ・共同利用・共同研究拠点の認定更新について
- 報告事項・平成26年度インターネット出願の実施状況について
- ・平成26年度資金の運用状況について
 - ・予算の短期貸付制度の活用実績について
 - ・平成26年度内部監査報告について
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学病院特定臨床研究監査委員会規程

（平成27年5月8日海大達第197号）

北海道大学病院における特定臨床研究に係る管理状況について，中立かつ客観的な立場から監査を行うための委員会を置くことに伴い，所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程

（平成27年5月21日海大達第198号）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第115号）並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令（平成27年政令第1号）が平成27年5月21日から施行されることに伴い，所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

（平成27年6月1日海大達第199号）

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

（平成27年6月1日海大達第200号）

北海道大学大学院工学研究院規程の一部を改正する規程

（平成27年6月1日海大達第201号）

本年6月1日付けで，工学研究院に置く部門を改組することに伴い，所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

国内

年月日	来訪者
27.5.28	北海道副知事 高井 修 氏
27.5.29	株式会社日立製作所 代表執行役 執行役副社長 齊藤 裕 氏
27.6.2	北海道副知事 辻 泰弘 氏



北海道副知事 高井 修 氏 (右側)



株式会社日立製作所 代表執行役
執行役副社長 齊藤 裕 氏 (左側)



北海道副知事 辻 泰弘 氏 (左側)

(総務企画部広報課)

海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.5.11	アルガルベ大学化学・薬学部 (ポルトガル) Isabel Cavaco 助教	両大学の交流に関する懇談
27.5.15	Aleksandras Stulginskis University (リトアニア) Antanas Maziliauskas 学長	両大学の交流に関する懇談
27.5.18	南京農業大学 (中国) Xu Xiang 副学長	両大学の交流に関する懇談
27.5.18	駐札幌大韓民国総領事館 Han Hye-Jin 総領事	就任挨拶
27.5.20	華中農業大学 (中国) Xianlong Zhang 副学長	両大学の交流に関する懇談
27.5.28	オウル大学 (フィンランド) Kari Laine チューレ研究センター長 兼 UArctic (北極圏大学) 研究副学長	講演
27.6.3	駐日ドイツ連邦共和国大使館 Robert von Rimscha 公使	講演



アルガルベ大学化学・薬学部 (ポルトガル)
Isabel Cavaco 助教 (中央)



Aleksandras Stulginskis University (リトアニア)
Antanas Maziliauskas 学長 (右から2人目)



南京農業大学（中国） Xu Xiang 副学長
（前列左から2人目）



華中農業大学（中国）
Xianlong Zhang 副学長（左から3人目）



オウル大学（フィンランド）
Kari Laine チューレ研究センター長（前列左）



駐札幌大韓民国総領事館
Han Hye-Jin 総領事（右側）



駐日ドイツ連邦共和国大使館
Robert von Rimscha 公使（左側）

（国際本部国際連携課）

■人事

平成27年5月14日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師	金 森 怜 鈴 木 幸 司	北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手

平成27年5月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (任期満了) (辞職)	石 神 圭 子 井 手 聡一郎	大学院法学研究科助教 大学院薬学研究院助教
【U R A 職】 (辞職)	松 浦 孝 範	大学力強化推進本部U R A
【技術職員等】 (辞職)	石 田 悠 水 口 真 衣	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

平成27年6月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 (期間：平成29年5月31日まで)	西 村 淳	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
【教授】 大学院工学研究院教授 国際連携研究教育局教授	富 岡 智 HARTLAND ELIZABETH LOUISE	大学院工学研究院准教授 (採用)
【准教授】 大学院医学研究科准教授 サステイナビリティ学教育研究センター准教授	中 川 伸 辻 宣 行	北海道大学病院講師 (採用)
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院保健科学研究院助教 電子科学研究所助教 遺伝子病制御研究所助教 国際連携研究教育局助教 国際連携研究教育局助教 国際連携研究教育局助教	有 木 宏 美 萬 井 太 規 松 尾 和 哉 二 宮 賢 介 VINKE RUUD CARR MICHAEL JAMES CHUA BRENDON YEW LOONG	(採用) (採用) (採用) (採用) (採用) (採用) (採用)
【課長・事務長・室長】 (免・国際本部国際交流課長) 国際本部国際交流課長	鳥 竜一郎 清 水 和 子	国際本部教授・副本部長・国際交流課長 日本学術振興会総務企画部総務課専門員

新任教授紹介

平成27年6月1日付



工学研究院教授に

とみおか さとし
富岡 智 氏

量子理工学部門
プラズマ理工学分野

生年月日

昭和37年11月22日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了（昭和63年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

数値電磁界解析，逆問題解析



国際連携研究教育局教授に

エリザベス ルイーズ ハートランド
Elizabeth Louise Hartland 氏

人獣共通感染症グローバルステーション
メルボルン大学ユニット

生年月日

1967年8月6日

最終学歴

Ph.D. (University of Melbourne, Australia) (1996年)

専門分野

微生物学，免疫学

新任部課長等紹介

平成27年6月1日付



国際本部国際交流課長に

しみず かずこ
清水 和子 氏

昭和48年生

平成7年 津田塾大学卒業

平成7年 日本学術振興会事業部研究協力課

平成9年 日本学術振興会事業部地域交流課

平成11年 日本学術振興会総務部庶務課

平成12年 日本学術振興会国際事業部国際研究協力課

平成15年 日本学術振興会国際事業部人物交流課企画調整係長

平成17年 日本学術振興会国際事業部研究協力第二課先端研究係長

平成18年 日本学術振興会国際事業部研究協力第二課交流企画係長

平成22年 日本学術振興会国際事業部研究協力第一課欧州・大洋州・アメリカ係長

平成24年 日本学術振興会国際事業部国際企画課総務企画係長

平成25年 日本学術振興会ワシントン海外研究連絡センター副センター長

平成26年 日本学術振興会総務企画部総務課専門員

訃報

名誉教授 福永 有利 氏
ふくなが ありとし
(享年79歳)



名誉教授 福永有利氏は、平成27年5月6日、入院先でご家族に見守られながらご逝去されました。享年満79歳でした。ここに福永先生の歩みとご業績を振り返り、その遺徳を偲ぶ縁と致します。

福永先生は、昭和33年3月に神戸大学法学部を卒業された後、同大学大学院法学研究科にて山木戸克己教授のご指導のもとで民事訴訟法学を専攻され、

同38年3月に同大学大学院博士課程を単位取得退学されました。その後、関西大学、広島大学の各教授を経て、昭和56年10月に本学法学部の民事法講座民事訴訟法担当教授として着任されました。

それ以降、平成3年4月1日付けで神戸大学教授に転出されるまで、本学法学部及び法学研究科において民事訴訟法の教育研究に従事され、有為な人材を多数輩出されたほか、北海道大学評議員などを歴任され、学外においては日本私法学会、民事訴訟法学会の理事、札幌家庭裁判所家事調停委員、北海道建築工事紛争審査会委員、札幌弁護士会懲戒委員会委員などの職にあつて、学問的及び社会的な貢献をされました。

本学から転出された後も、神戸大学、帝塚山大学、同志社大学の教授職

を歴任され、法科大学院を含む教育研究の任に当たられたほか、法制審議会において倒産法を中心とする立法にも参画されました。

福永先生の学問業績は民事訴訟法学の全領域にわたっています。その中でも、当事者適格を中心とする当事者論、集団利益紛争、新種・特殊契約その他の双方未履行双務契約に関する倒産法上の問題などを論じられた多くの著書・論文により、民事訴訟法学の理論的水準を大きく高め、また学内外の研究會を通じて実務にも大きな影響を及ぼしました。福永先生の幅広く緻密な研究姿勢が、こうした多方面での活動を可能にしたものです。

ここに謹んで福永先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

(法学研究科・法学部)

名誉教授 盛田 フミ 氏
もりた ふみ
(享年82歳)



名誉教授 盛田フミ氏が逝去されましたので、ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和7年4月8日に新潟県長岡市に生まれ、同30年3月に北海道大学理学部を卒業、引き続き同大学院に進学、同35年3月には同大学から理学博士の学位を授与されました。昭和35年7月東京大学理学部助手、同36年4月大阪大学たんぱく質研究所助手、同37年8月からはミネソタ大学博士研究員として、タンパク質の物理化学及

び酵素速度論的研究に従事されました。昭和39年12月に帰国され、同40年1月北海道大学理学部化学科助手に、同41年4月には同化学第二学科に新設された生物有機化学講座の所属となり、同48年7月に助教授、平成元年4月に教授に昇任されました。平成8年3月北海道大学を定年退職後、同大学名誉教授の称号を授与されました。引き続き酪農学園大学嘱託教授に就任し、同15年3月同大学を退職されました。

先生は大学院生の時にミオシンのタンパク質化学的研究に着手して以来、一貫して筋肉収縮の分子機構の解明を目指した生化学的研究に従事してこられました。従来の酵素反応速度論的研究に加え、分光学的な手法を取り入れることにより、筋肉のエネルギー変換過程にミオシン分子の高次構造変化がカップルしていることを発見された業績は、現在の筋収縮分子機構の基本的

スキームの礎となるものであり、国際的に高く評価されています。

学内では、共同利用施設「超遠心機研究室」「高分解能核磁気共鳴装置研究室」の運営委員等を、学外では、文部省学術審議会専門委員、日本生化学会評議員等を歴任されました。昭和52年には、日本を代表する女性研究者グループの一員として中国を訪問し、日中女性研究者の交流に貢献されました。

以上のように、先生は筋収縮の分子機構の生化学的研究における優れた業績により、学術上の進歩に多大な貢献をされました。また、日本を代表する生化学者の一人として、若手の女性研究者を奮い立たせるという面も含め、教育上において尽力されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

准教授 井上 純一 氏

いのうえ じゅんいち

(享年48歳)



准教授 井上 純一氏は、平成27年5月17日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、平成5年3月に慶應義塾大学理工学部物理学科を卒業し、同年4月に東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻に進学されました。その後、理化学研究所脳科学総合研究センター、東京工業大学大学院理工学研究

科物性物理学専攻助手を経て、平成12年4月に北海道大学大学院工学研究科助教授に任用されました。その後、改組に伴い、平成16年4月より、情報科学研究科准教授となりました。

研究面においては、情報統計力学を専門分野として、統計力学を情報科学や経済学、社会科学などの境界領域へ応用する研究を積極的に進められました。より具体的には、スピングラスに代表されるランダムスピン系（空間的に乱れた磁石の数学モデル）に対する統計力学の手法や確率過程・確率論の方法を、情報科学や統計科学、脳科学、さらに大規模データ科学としての経済学や社会科学、データ駆動型数理モデリングなど、いくつかの分野にまたがる境界領域の課題に応用する研究を行われました。特に最近では、経済物理及び金融データ解析の研究も始め、統計

力学などにおける各種データ解析手法の経済現象への応用について検討を始めておりました。

教育面では、北海道大学工学部、情報科学研究科において専門科目を担当するとともに、全学共通科目を通して多くの学生の教育にあたられました。また研究室に配属された学部生、大学院生に対しては、最先端の研究論文を直接指導し、国内の大学にとどまらず、国際的な視野で研究・教育活動に邁進されました。

このように、同氏は、情報統計力学の分野において、教育活動、研究活動に尽力されるとともに、学術振興、人材育成に多大な貢献をされました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(情報科学研究科)

資料

在籍学生数（平成27年5月1日現在）

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人] [人]	人	187人	200人	252人	一人	一人	639人 (305<47.7%>)	8人	10人	16人	76人	749人 (381<50.9%>)
教育学部	50 [10]		54	67	68	—	—	189 (91<48.1%>)	1	10	9	2	211 (101<47.9%>)
法学部	200 [10] [10]		218	220	244	—	—	682 (228<33.4%>)	3	2		14	701 (237<33.8%>)
経済学部	190		194	199	242	—	—	635 (160<25.2%>)			10	14	659 (175<26.6%>)
理学部	300		315	310	363	—	—	988 (238<24.1%>)		2	1	8	999 (245<24.5%>)
医学部	287 [5] [20]		306	314	328	106	107	1,161 (515<44.4%>)				4	1,165 (516<44.3%>)
歯学部	53		60	47	58	40	56	261 (100<38.3%>)			2		263 (100<38.0%>)
薬学部	80		84	80	90	30	30	314 (125<39.8%>)		4			318 (125<39.3%>)
工学部	670 [10]		709	724	867	—	—	2,300 (321<14.0%>)	1	3		30	2,334 (330<14.1%>)
農学部	215		227	231	248	—	—	706 (249<35.3%>)	2	1		9	718 (256<35.7%>)
獣医学部	40		41	46	39	41	43	210 (83<39.5%>)					210 (83<39.5%>)
水産学部	215		251	208	206	—	—	665 (164<24.7%>)		1	3	9	678 (171<25.2%>)
総合教育部	—	2,676	—	—	—	—	—	2,676 (788<29.4%>)				46	2,722 (812<29.8%>)
合計	2,485 [15] [50]	2,676	2,646	2,646	3,005	217	236	11,426 (3,367<29.5%>)	15	33	41	212	11,727 (3,532<30.1%>)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
遺伝子病制御研究所	1人	人	一人	一人	1人(0<0.0%>)
スラブ・ユーラシア研究センター	2		—	—	2 (1<50.0%>)
国際本部	3		50	10	63 (42<66.7%>)
高等教育推進機構	1		—	—	1 (0<0.0%>)
総合博物館	1		—	—	1 (1<100.0%>)
北方生物圏フィールド科学センター	1		—	—	1 (1<100.0%>)
観光学高等研究センター	2		—	—	2 (1<50.0%>)
合計	11	0	50	10	71 (46<64.8%>)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。

また、生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。

■大学院

研究科等名	修士課程 (博士前期)				専門職学位課程				博士課程 (博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計		
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文学研究科	90人	81人	115人	196人 (97/49.5%)	—人	—人	—人	—人	—人	35人	27人	31人	131人	—人	189人 (99/52.4%)	1人	3人	11人	3人	12人	415人 (219/52.8%)
法学研究科	20	17	22	39 (15/38.5)	50	24	15	22	123 (28/22.8)	15	12	9	28	—	49 (15/30.6)		1	4	9	1	226 (65/28.8)
経済学研究科	30	35	35	70 (35/50.0)	20	13	16	—	29 (5/17.2)	15	2	8	11	—	21 (8/38.1)		1	1	2		124 (51/41.1)
医学研究科	30	15	25	40 (22/55.0)	—	—	—	—	—	100	92	90	84	173	439 (108/24.6)			8		5	492 (134/27.2)
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	37	35	24	38	134 (52/38.8)			11			145 (55/37.9)
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	19	33	22	17	91 (39/42.9)			4		1	96 (42/43.8)
情報科学研究科	177	189	197	386 (35/9.1)	—	—	—	—	—	42	24	54	74	—	152 (20/13.2)			10	7	1	556 (57/10.3)
水産科学院	90	97	117	214 (61/28.5)	—	—	—	—	—	35	15	13	36	—	64 (16/25.0)				1	3	282 (78/27.7)
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			2			2 (0/0.0)
環境科学院	159	168	138	306 (106/34.6)	—	—	—	—	—	63	51	34	90	—	175 (60/34.3)						481 (166/34.5)
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			17			17 (9/52.9)
理学院	129	126	153	279 (43/15.4)	—	—	—	—	—	56	44	40	52	—	136 (28/20.6)					1	416 (71/17.1)
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (0.0)
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 —
農学院	150	157	181	338 (112/33.1)	—	—	—	—	—	50	46	41	67	—	154 (49/31.8)				3	1	496 (163/32.9)
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (2/40.0)
生命科学学院	132	140	111	251 (75/29.9)	—	—	—	—	—	46	37	41	44	—	142 (43/30.3)					7	400 (122/30.5)
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (0/0.0)
教育学院	45	43	69	112 (71/63.4)	—	—	—	—	—	21	14	11	63	—	88 (43/48.9)					1	201 (115/57.2)
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			3			3 (1/33.3)
国際広報メディア・観光学院	42	47	60	107 (73/68.2)	—	—	—	—	—	17	13	11	53	—	77 (40/51.9)	1					185 (114/61.6)
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			11			11 (9/81.8)
保健科学院	26	57	44	101 (48/47.5)	—	—	—	—	—	8	12	10	18	—	40 (19/47.5)						141 (67/47.5)
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			4			4 (2/50.0)
工学院	326	355	340	695 (90/12.9)	—	—	—	—	—	69	53	45	67	—	165 (24/14.5)				4	5	869 (118/13.6)
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			18			18 (4/22.2)
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	8 (1/12.5)						8 (1/12.5)
総合化学院	129	154	157	311 (57/18.3)	—	—	—	—	—	38	44	53	53	—	150 (37/24.7)					3	464 (94/20.3)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	41	29	—	70 (24/34.3)	—	—	—	—	—	—	1			2		73 (25/34.2)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (3/60.0)
合計	1,575	1,681	1,764	3,445 (940/27.3)	100	111	89	22	222 (57/25.7)	680	549	564	929	232	2,274 (701/30.8)	2	6	120	31	41	6,141 (1,787/29.1)

(学務部学務企画課)

平成27年度外国人留学生数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

【部局別】

学部等

平成27年 5月1日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部	1(1)	2(1)				86(65)	89(67)
教 育 学 部	1(1)				3(2)	10(6)	14(9)
法 学 部	1(1)					14(7)	15(8)
経 済 学 部	1(1)	1(1)			1(1)	22(13)	25(16)
理 学 部					7(5)	8(6)	15(11)
医 学 部					1(1)	4(1)	5(2)
工 学 部	27(3)		4(2)		12(2)	28(8)	71(15)
農 学 部	2(1)		1		1	9(6)	13(7)
獣 医 学 部					1(1)		1(1)
水 産 学 部					5(2)	9(5)	14(7)
高等教育推進機構総合教育部	9(3)		3		26(15)		38(18)
合 計	42(11)	3(2)	8(2)		57(29)	190(117)	300(161)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文 学 研 究 科	4		11(4)	3(1)	1(1)		10(8)		68(51)		42(28)	17(15)	156(108)
法 学 研 究 科	1(1)						5(1)		19(10)		18(6)	14(7)	57(25)
経 済 学 研 究 科	3(1)		1				1(1)		47(33)	2	4(3)	2(1)	60(39)
医 学 研 究 科	2(2)		3(2)				2(1)		2(2)		15(8)	2(2)	26(17)
歯 学 研 究 科			1(1)								5		6(1)
獣 医 学 研 究 科			23(11)				3(2)				18(10)	2(1)	46(24)
情 報 科 学 研 究 科	4(2)		12(4)	2	2(1)		8(2)		29(6)		28(5)	15(2)	100(22)
水 産 科 学 研 究 院			6(3)				5(2)		12(7)		9(4)	4(1)	36(17)
水 産 科 学 研 究 院												1	1(0)
環 境 科 学 研 究 院	7(2)		12(8)		1		5(2)		51(25)		42(19)		118(56)
地 球 環 境 科 学 研 究 院				1								15(9)	16(9)
理 学 研 究 院	4(1)		8(3)						15(6)		17(5)	1	45(15)
農 学 研 究 院	13(7)		30(12)				11(4)	1(1)	18(7)		31(16)	3(1)	107(48)
農 学 研 究 院												4(2)	4(2)
生 命 科 学 研 究 院	5(2)		29(10)				4(3)	2(1)	5(4)		10(4)	3(2)	58(26)
先 端 生 命 科 学 研 究 院								1					1(0)
教 育 学 研 究 院	1(1)		2(2)				2(1)		31(27)		5(2)	1(1)	42(34)
国際広報メディア・観光学院	2(1)		6(4)				2(1)		59(47)		9(4)		78(57)
メディア・コミュニケーション研究院				2(2)								9(7)	11(9)
保 健 科 学 研 究 院	1(1)		1				1		3(3)		2(1)		8(5)
保 健 科 学 研 究 院												1(1)	1(1)
工 学 研 究 院	27(8)		33(10)		1		11(1)		23(5)		31(6)	9(4)	135(34)
工 学 研 究 院				4(1)								11(3)	15(4)
工 学 研 究 科											1		1(0)
綜 合 化 学 研 究 院	1(1)		15(8)				5		9(3)		25(13)	3	58(25)
公 共 政 策 学 教 育 部										12(9)			12(9)
公 共 政 策 学 連 携 研 究 部												5(3)	5(3)
スラブ・ユーラシア研究センター				1(1)									1(1)
北方圏フィールド科学センター				1(1)									1(1)
観光学高等研究センター				1									1(0)
国際本部留学生センター												3(2)	3(2)
高 等 教 育 推 進 機 構												1	1(0)
合 計	75(30)		193(82)	15(6)	5(2)		75(29)	4(2)	391(236)	14(9)	312(134)	126(64)	1,210(594)

日本語研修生等

国際本部留学生センター	日本語・日本文化研修生		日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	私 費	国 費	私 費	
	28(22)	22(15)	10(3)		60(40)

外国人留学生総数

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留 学 生 総 数	外 国 人 学 生 （「留学」以外）	留 学 生 及 び 外 国 人 学 生 総 計
	修 士 課 程	専 門 職 位 課 程	博 士 課 程					
107(42)	471(268)	14(9)	580(245)	338(191)	60(40)	1,570(795)	67(20)	1,637(815)

* () 内は女子を内数で示す。

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

(国際本部国際教務課)

平成27年度北海道大学国別外国人留学生数 (「留学」以外の在留資格の者を含む)

平成27年5月1日現在

Table with columns for region (e.g., アジア, 中近東, アフリカ, 大洋州, 北米, 中南米, 欧州), country, and student categories (undergraduate, graduate, etc.) across various departments and faculties.

※ ()内は女子の数で内数。

(国際本部国際教務課)

平成26年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

平成27年5月1日現在

学部・学科 項目	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	医学科	保健学科	人数(名)	薬科学科(4年制)	薬科学科(6年制)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	
(A) 卒業生数	(82) 195	(27) 56	(75) 221	(50) 185	(80) 298	(18) 103	(129) 196	(23) 47	(12) 52	(19) 30	(100) 662	(78) 224	(15) 38	(67) 203	(775) 2,510
(B) 就職希望者数	(65) 142	(17) 32	(56) 148	(46) 165	(10) 34		(99) 131		(0) 2	(19) 28	(18) 70	(22) 59	(12) 30	(21) 58	(385) 899
(C) 就職者数	(0) (59) (0) 127	(0) (17) (0) 32	(0) (53) (0) 139	(0) (45) (0) 158	(0) (10) (1) 33	(0) (0) (0) 0	(0) (99) (0) 131	(0) (0) (0) 0	(0) (0) (0) 1	(1) (19) (1) 28	(0) (18) (0) 65	(1) (21) (2) 54	(0) (12) (1) 30	(1) (19) (1) 45	(3) (372) (6) 843
うち 道外就職者	(28) 71	(9) 18	(25) 76	(32) 110	(8) 21		(31) 40		(0) 1	(9) 17	(11) 45	(16) 37	(11) 25	(13) 29	(193) 490
うち 有職者															(0) 0
(D) 就職率(%)	(90.8) 89.4	(100.0) 100.0	(94.6) 93.9	(97.8) 95.8	(100.0) 97.1	-	(100.0) 100.0	-	-	(100.0) 100.0	(100.0) 92.9	(95.5) 91.5	(100.0) 100.0	(90.5) 77.6	(96.6) 93.8
昨年の就職率(%)	(83.3) 82.5	(95.5) 88.4	(93.9) 89.8	(96.3) 96.0	(100.0) 73.3	-	(95.5) 97.0	-	-	(100.0) 96.0	(92.3) 94.6	(92.3) 87.7	(100.0) 100.0	(88.0) 84.1	(92.3) 90.5
(E) 進学者数	(8) (9) (29) 34	(7) (7) (14) 14	(7) (11) (25) 42	(2) (3) (10) 11	(64) (69) (239) 257	(0) (0) (1) 1	(18) (23) (46) 53	(0) (0) (0) 0	(12) (12) (48) 50	(0) (0) (1) 1	(76) (78) (554) 572	(44) (50) (138) 154	(0) (1) (0) 3	(37) (40) (127) 137	(275) (303) (1,232) 1,329
うち 大学院	(8) (9) (29) 34	(7) (7) (14) 14	(7) (11) (24) 41	(2) (3) (10) 11	(64) (69) (239) 257	(0) (0) (1) 1	(18) (23) (46) 52		(12) (12) (48) 50	(0) (0) (1) 1	(76) (78) (554) 572	(44) (50) (138) 154	(0) (1) (0) 3	(37) (40) (127) 136	(275) (303) (1,231) 1,326
うち 大学			(0) (0) (1) 1				(0) (0) (0) 1							(0) (0) (0) 1	(0) (0) (1) 3
うち 就職している者															(0) (0) (0) 0
(F) その他	(14) 34	(3) 10	(11) 40	(2) 16	(1) 8	(18) 102	(7) 12	(23) 47	(0) 1	(0) 1	(4) 25	(7) 16	(2) 5	(8) 21	(100) 338

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。

・進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。

◇医学部については、卒業後2年間の研修期間がある。

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある。

◇薬学部は、4年制(薬科学科)と、6年生(薬学科)がある。

修士課程

研究科・学院 項目	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	情報科学 研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学院	教育学院	国際広域メディア ・観光学院	保健科学院	工学院	総合化学院	合計	
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)		
(A) 修了者数	(62) 97	(6) 10	(12) 30	(9) 19	(12) 178	(21) 92	(28) 123	(25) 132	(49) 155	(36) 118	(27) 38	(21) 46	(15) 45	(34) 343	(26) 147	(383) 1,573	
(B) 就職希望者数	(33) 54	(4) 6	(9) 22	(1) 8	(9) 156	(16) 77	(17) 90	(21) 97	(38) 128	(27) 86	(12) 20	(15) 35	(12) 34	(29) 307	(21) 112	(264) 1,232	
(C) 就職者数	(1) (27) (4) 43	(0) (3) (0) 5	(0) (6) (0) 18	(0) (1) (0) 7	(0) (9) (0) 155	(0) (16) (0) 75	(2) (17) (2) 90	(1) (20) (6) 92	(0) (34) (0) 116	(1) (27) (1) 83	(0) (8) (0) 16	(0) (10) (1) 29	(0) (12) (0) 33	(0) (29) (0) 305	(0) (21) (0) 111	(5) (240) (14) 1,178	
うち 道外就職者	(15) 21	(3) 5	(5) 11	(0) 3	(8) 133	(12) 62	(10) 67	(17) 71	(28) 98	(23) 74	(5) 5	(6) 16	(5) 14	(26) 264	(18) 101	(181) 945	
うち 有職者	(1) 1	(1) 1	(0) 2				(0) 1	(0) 1		(1) 6	(1) 4	(5) 7			(9) 23		
(D) 就職率(%)	(81.8) 79.6	(75.0) 83.3	(66.7) 81.8	(100.0) 87.5	(100.0) 99.4	(100.0) 97.4	(100.0) 100.0	(95.2) 94.8	(89.5) 90.6	(100.0) 96.5	(66.7) 80.0	(66.7) 82.9	(100.0) 97.1	(100.0) 99.3	(100.0) 99.1	(90.9) 95.6	
昨年の就職率(%)	(76.0) 80.0	(100.0) 86.7	(100.0) 95.2	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(93.3) 93.2	(92.0) 91.5	(100.0) 91.8	(86.0) 92.7	(88.9) 93.8	(82.4) 85.7	(77.8) 80.6	(100.0) 95.7	(100.0) 99.7	(100.0) 97.1	(90.5) 94.7	
(E) 進学者数	(9) (9) (16) 16	(1) (1) (3) 3	(0) (0) (1) 1	(5) (5) (8) 8	(2) (2) (15) 17	(1) (1) (8) 9	(7) (7) (28) 28	(3) (3) (27) 29	(10) (10) (26) 26	(8) (8) (24) 26	(3) (3) (5) 5	(1) (1) (3) 3	(1) (1) (8) 10	(2) (2) (18) 20	(0) (0) (26) 28	(3) (3) (216) 229	(55) (55) (216) 229
うち 大学院	(9) (9) (16) 16	(1) (1) (3) 3	(0) (0) (1) 1	(5) (5) (8) 8	(2) (2) (15) 17	(1) (1) (8) 8	(7) (7) (28) 28	(3) (3) (27) 29	(10) (10) (26) 26	(8) (8) (24) 26	(3) (3) (5) 5	(1) (1) (3) 3	(1) (1) (8) 10	(2) (2) (18) 20	(0) (0) (26) 28	(3) (3) (216) 228	(55) (55) (216) 228
うち 大学						(0) (0) (0) 1									(0) (0) (0) 1	(0) (0) (1) 2	
うち 就職している者	(0) (0) (0) 1			(1) (1) (1) 1									(0) (1) (0) 3		(1) (2) (1) 5		
(F) その他	(26) 38	(2) 2	(6) 11	(3) 4	(1) 6	(4) 8	(4) 5	(2) 11	(5) 13	(1) 9	(16) 17	(10) 14	(1) 2	(5) 18	(2) 8	(88) 166	

・A=C+E+F ・D=C÷B×100 ・上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率

・就職者数〔 〕は、正規の職員等でないもので内数。

・進学者数〔 〕は、本学進学者数で内数。

・進学者数「うち就職している者〔 〕」は、正規の職員等でないもので内数。

専門職大学院

項目	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学研究科)		公共政策大学院 (公共政策学教育部)		合 計	
	人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)	
(A) 修了者数	(10) 58	(5) 22	(8) 44	(23) 124				
(B) 就職希望者数	(0) 1	(1) 14	(7) 41	(8) 56				
(C) 就職者数	[0] [0]	(0) 1	[0] [0]	(1) 12	(6) 38	[0] [1]	(7) 51	
うち 道外就職者			(1) 11	(3) 20	(4) 31			
うち 有職者	(0) 1		(1) 14	(1) 15				
(D) 就職率(%)	- 100.0	(100.0) 85.7	(85.7) 92.7	(87.5) 91.1				
昨年の就職率(%)	- -	(100.0) 100.0	(80.0) 93.9	(83.3) 95.7				
(E) 進学者数	[0] [0]	(0) 0	[1] [1]	(1) 1	(0) 0	[1] [1]	(1) 1	
うち 大学院			[1] [1]	(1) 1		[1] [1]	(1) 1	
うち 大学					[0] [0]		(0) 0	
うち 就職している者					[0] [0]		(0) 0	
(F) その他	(10) 57	(3) 9	(2) 6	(15) 72				

- ・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- ◇法科大学院の (F) その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

項目	文学研究科		法学研究科		経済学研究科		医学研究科		歯学研究科		獣医学研究科		情報科学研究科		水産科学院		環境科学院		理学院		農学院		生命科学院		教育学院*		国際広報メディア・観光学院		保健科学院		工学院*		総合化学院		合 計		
	人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)		人数(名)				
(A) 修了者数	[11] [19]	[14] [36]	[0] [2]	[1] [8]	[2] [4]	[3] [10]	[1] [2]	[14] [64]	[0] [0]	[15] [38]	[1] [2]	[9] [18]	[0] [7]	[10] [47]	[0] [2]	[6] [18]	[1] [7]	[8] [31]	[3] [10]	[5] [27]	[2] [6]	[17] [40]	[1] [7]	[14] [42]	[3] [9]	[7] [15]	[2] [2]	[5] [5]	[0] [13]	[3] [14]	[0] [13]	[71] [28]	[0] [1]	[2] [28]	[26] [98]	[143] [512]	
(B) 就職希望者数	(6) 18	(0) 7	(2) 9	(11) 59	(3) 19	(5) 10	(6) 36	(3) 10	(4) 17	(2) 16	(10) 25	(9) 25	(3) 7	(1) 2	(3) 14	(9) 59	(2) 27	(79) 360																			
(C) 就職者数	[5] [9]	[6] [17]	[0] [0]	[0] [7]	[1] [7]	[4] [28]	[10] [58]	[0] [0]	[3] [19]	[0] [2]	[5] [10]	[2] [12]	[6] [35]	[0] [0]	[2] [9]	[1] [14]	[2] [8]	[15] [5]	[8] [13]	[2] [2]	[21] [17]	[9] [13]	[23] [7]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[3] [14]	[5] [12]	[9] [54]	[0] [13]	[2] [27]	[23] [92]	[71] [337]				
うち 道外就職者	(2) 8	(0) 2	(1) 3	(2) 12	(1) 4	(4) 8	(4) 28	(1) 5	(2) 13	(1) 5	(7) 17	(7) 13	(0) 1	(0) 1	(1) 3	(6) 32	(2) 22	(41) 176																			
うち 有職者	(1) 4	(0) 2	(0) 16	(0) 3	(0) 0	(0) 6	(0) 3	(0) 3	(0) 1	(0) 4	(0) 7	(0) 8	(0) 18	(0) 3	(0) 3	(0) 18	(0) 78																				
(D) 就職率(%)	(100.0) 94.4	(100.0) 100.0	(50.0) 77.8	(90.9) 98.3	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 97.2	(66.7) 90.0	(50.0) 82.4	(100.0) 93.8	(80.0) 84.0	(100.0) 92.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 91.5	(100.0) 100.0	(100.0) 96.0	(89.9) 93.6																		
昨年の就職率(%)	(100.0) 66.7	(100.0) 100.0	- 100.0	(90.0) 98.3	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 96.4	- 81.8	(71.4) 76.9	(75.0) 95.0	(90.9) 92.6	(100.0) 96.6	(100.0) 100.0	(85.7) 90.9	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	(100.0) 96.0	(92.8) 94.2																			
(E) 進学者数	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]	[0] [0]			
うち 大学院																																					
うち 大学																																					
うち 就職している者																																					
(F) その他	(8) 19	(1) 1	(2) 3	(4) 6	(12) 19	(4) 8	(4) 12	(4) 9	(6) 17	(3) 12	(9) 19	(5) 19	(4) 8	(2) 5	(0) 0	(4) 17	(0) 1	(0) 175																			

- ・ A=C+E+F ・ D=C÷B×100 ・ 上段 () は女子で内数/就職率 () は女子の就職率
- ・ 博士の修了者数 [] は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
- ・ 就職者数 [] は、正規の職員等でないもので内数。
- ・ 進学者数 [] は、本学進学者数で内数。
- ・ 進学者数「うち就職している者 []」は、正規の職員等でないもので内数。
- * : ◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。
- ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。

2. 地域別就職状況

平成27年5月1日現在

企業所在地	学部		文学部 就職者数	教育学部 就職者数	法学部 就職者数	経済学部 就職者数	理学部 就職者数	医学部		歯学部 就職者数	薬学部		工学部 就職者数	農学部 就職者数	獣医学部 就職者数	水産学部 就職者数	合計 地域別就職者数
	就職者数	卒業生数						医学科 就職者数	保健学科 就職者数		薬科学科(4年制) 就職者数	薬科学科(6年制) 就職者数					
北海道	札幌市以外	41 (21)	7 (4)	59 (24)	42 (13)	10 (2)	79 (60)	9 (9)	2 (1)	9 (4)	16 (5)	1 (0)	12 (4)	1 (0)	1 (0)	285 (146)	
	青森県	1 (0)	1 (0)		6 (0)	2 (0)	1 (1)			1 (0)			1 (0)			4 (1)	
	岩手県	1 (0)	1 (1)		3 (1)		3 (1)									1 (1)	
	宮城県	1 (0)	1 (1)				1 (1)									1 (1)	
	秋田県	1 (1)															
	山形県																
	福島県					1 (0)											
	茨城県																
	栃木県																
	群馬県	2 (1)				1 (0)	1 (1)										
	千葉県	1 (0)		1 (1)		1 (1)	9 (6)										
	東京都	42 (14)	10 (5)	51 (19)	80 (22)	14 (5)	15 (12)	1 (0)									
	神奈川県	3 (2)	1 (0)	3 (1)	3 (1)		2 (2)										
	新潟県	2 (1)	1 (0)	2 (1)	2 (0)		1 (1)										
	富山県	1 (1)		2 (0)	2 (0)		1 (0)										
	石川県			1 (0)			1 (1)										
	福井県																
	山梨県	3 (2)		1 (1)		1 (0)											
	長野県																
	岐阜県																
	静岡県	5 (3)	1 (1)	2 (0)	2 (2)	2 (2)											
	愛知県		2 (1)	2 (1)	2 (2)	2 (2)											
	三重県			2 (0)	1 (1)												
	滋賀県																
	京都府			2 (0)	3 (1)	1 (0)											
	大阪府	6 (2)	1 (1)	4 (0)	6 (3)	1 (1)	2 (1)										
	兵庫県	2 (1)															
	奈良県																
	和歌山県																
	鳥取県																
	島根県																
	岡山県																
	広島県																
	山口県	1 (0)			1 (0)		1 (1)										
	徳島県			1 (0)													
	香川県				1 (0)												
	愛媛県																
	高知県																
	福岡県					1 (0)											
	佐賀県																
	長崎県																
	熊本県			1 (1)													
	大分県																
	宮崎県																
	鹿児島県																
	沖縄県																
	海外																
	就職先詳細不明	1 (0)															
	合計	127 (59)	32 (17)	139 (53)	158 (45)	33 (10)	131 (99)	0 (0)	1 (0)	28 (19)	65 (18)	54 (21)	30 (12)	45 (19)	843 (372)		

※ () は女子で内数

修士課程

企業の所在地	研究科・学院		文学研究科 就職者数	法学研究科 就職者数	経済学研究科 就職者数	医学研究科 就職者数	情報科学 研究科 就職者数	水産科学 院 就職者数	環境科学 院 就職者数	理学院 就職者数	農学院 就職者数	生命科学 院 就職者数	教育学院 就職者数	国際・理工 学 院 就職者数	保健科学 院 就職者数	工学院 就職者数	総合化学 院 就職者数	合計
	就職者数	地域別就職者数																
北海道	札幌市	12 (7)					22 (1)	9 (3)	20 (6)	9 (1)	9 (3)	4 (0)	10 (2)	9 (2)	16 (6)	21 (2)	6 (2)	156 (36)
	札幌市以外	10 (5)						4 (1)	3 (1)	11 (1)	9 (3)	5 (4)	1 (1)	4 (2)	3 (1)	16 (1)	3 (0)	71 (21)
東北	青森県																	2 (1)
	岩手県	1 (0)						1 (0)		2 (1)								1 (0)
	宮城県																	5 (2)
	秋田県																	1 (1)
関東	山形県																	0 (0)
	福島県																	0 (0)
	茨城県							1 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)					1 (0)	3 (0)
	栃木県							1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)						10 (2)
	群馬県							1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)						5 (1)
	埼玉県	1 (1)			1 (0)				1 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (1)						5 (1)
	千葉県								1 (0)	45 (12)	60 (19)	45 (18)	1 (1)					16 (2)
	東京都	11 (11)		3 (1)	1 (0)	10 (5)	1 (0)	83 (4)	34 (7)	45 (12)	4 (1)	4 (1)	1 (1)	1 (0)	7 (3)	173 (15)	54 (10)	575 (115)
	神奈川県	1 (0)					1 (0)	12 (1)	2 (1)	3 (0)	5 (0)	4 (1)	1 (0)		1 (0)	11 (2)	4 (0)	45 (6)
	新潟県								1 (0)		1 (0)	1 (0)	1 (0)					5 (0)
北陸	富山県							1 (1)				1 (0)						9 (2)
	石川県											1 (0)						6 (0)
	福井県								1 (0)									1 (0)
中部	山梨県																	2 (1)
	長野県	1 (1)					1 (1)				2 (0)	1 (0)						5 (1)
	岐阜県									1 (0)								1 (0)
	静岡県	1 (0)					1 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (3)							19 (3)
	愛知県						9 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (1)	5 (1)			1 (0)				55 (8)
	三重県							2 (0)		1 (0)	1 (0)							5 (1)
	滋賀県											1 (0)						1 (0)
	京都府						4 (0)	2 (0)			3 (0)							12 (1)
	大阪府						15 (0)	1 (0)	8 (1)	3 (1)	8 (2)	9 (1)		1 (0)				65 (10)
	兵庫県	1 (1)					3 (0)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)						27 (4)
近畿	奈良県									1 (0)								1 (0)
	和歌山県								1 (0)		1 (0)		1 (1)					3 (1)
	鳥取県	1 (0)									1 (1)							2 (1)
中国	鳥根県																	0 (0)
	岡山県																	0 (0)
	広島県							1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)							4 (1)
	山口県																	2 (0)
	徳島県																	9 (0)
	香川県						1 (0)											2 (0)
四国	愛媛県																	3 (0)
	高知県																	1 (0)
	福岡県																	2 (0)
	佐賀県																	0 (0)
	長崎県																	0 (0)
九州	熊本県																	0 (0)
	大分県																	0 (0)
	宮崎県																	0 (0)
	鹿児島県																1 (1)	1 (1)
沖縄県																	0 (0)	
海外																		0 (0)
就職先詳細不明		2 (1)		1 (1)	1 (0)		2 (2)		2 (0)		1 (1)							2 (1)
合計		43 (27)		5 (3)	18 (6)	7 (1)	155 (9)	75 (16)	90 (17)	92 (20)	116 (34)	83 (27)	16 (8)	29 (10)	33 (12)	305 (29)	111 (21)	1,178 (240)

※ () は女子で内数

専門職大学院

企業 の所在地	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学研究科)		公共政策大学院 (公共政策学教育部)		計
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数	
北海道	1	0	1	0	7	8	(1)
東北					11	12	(2)
関東					1	0	(0)
北陸					10	23	(4)
中部					1	1	(0)
近畿					2	2	(0)
中国					1	1	(0)
四国					1	0	(0)
九州					1	0	(0)
沖縄県							(0)
海外					1	1	(0)
就職先詳細不明							(0)
合計	1	0	12	1	38	51	(7)

※ () は女子で内数

博士課程

企業の所在地	研究科・学院		文学研究科 就職者数	法学研究科 就職者数	経済学研究科 就職者数	医学研究科 就職者数	歯学研究科 就職者数	獣医学研究科 就職者数	情報科学研究科 就職者数	水産科学研究科 就職者数	環境科学研究科 就職者数	理学院 就職者数	農学院 就職者数	生命科学院 就職者数	教育大学院* 就職者数	国際大学院 就職者数	保健科学院 就職者数	工学院* 就職者数	総合化学院 就職者数	地域別就職者数	合計
	就職者数	地域別就職者数																			
北海道	札幌市以外		6 (2)	5 (0)	4 (0)	17 (2)	13 (2)	1 (0)	7 (2)	4 (1)	1 (0)	9 (1)	2 (0)	2 (1)	2 (1)		9 (1)	5 (0)	5 (0)	104 (16)	
東北	青森県																			49 (13)	
	岩手県																				
	宮城県																	1 (0)			
	秋田県												1 (1)								
	山形県																				
関東	福島県									1 (0)											
	茨城県		1 (0)							1 (0)											
	栃木県									1 (0)											
	群馬県																	2 (0)			
	千葉県		1 (0)																		
北陸	東京都		1 (0)																		
	神奈川県		1 (1)																		
	新潟県																				
	富山県																				
	石川県																				
中部	福井県																				
	山梨県																				
	長野県																				
	岐阜県																				
	静岡県		1 (1)																		
近畿	愛知県																				
	三重県																				
	滋賀県																				
	京都府																				
	大阪府																				
中国	兵庫県																				
	奈良県																				
	和歌山県																				
	鳥取県																				
	島根県																				
四国	岡山県																				
	広島県																				
	山口県																				
	徳島県		1 (0)																		
	香川県																				
九州	愛媛県																				
	高知県																				
	福岡県																				
	佐賀県		1 (0)																		
	長崎県																				
沖縄県	熊本県																				
	大分県																				
	宮崎県																				
	鹿児島県																				
	沖縄県																				
海外																					
就職先詳細不明																					
合計		17 (6)	7 (0)	7 (1)	58 (10)	19 (3)	10 (5)	35 (6)	9 (2)	14 (2)	15 (2)	21 (8)	23 (9)	1 (1)	7 (3)	0 (0)	14 (3)	54 (9)	27 (2)	337 (71)	

※ () は女子で内数
 * : ◇教育大学院には、教育学研究科修了者を含む。
 ◇工学院には、工学研究科修了者を含む。

(学務部キャリアアセンター)

編集メモ

●この度、札幌キャンパスが、世界最大級の旅行サイト「トリップアドバイザー」の2015年「Certificate of Excellence (エクセレンス認証)」を受賞しました。この賞は、トリップアドバイザーで安定した高評価の口コミを得ている施設が獲得できる賞となっています。

●本年度10回目を迎える緑のビアガーデンは、7月28日(火)～31日(金)に百年記念会館で開催します。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。





2010.6.26 室蘭本線 静狩～長万部（長万部町）

北の鉄道風景 27 初夏の湿原を駆ける

列車の車窓から湿原の景観を眺めることができるのは、釧網本線の遠矢～茅沼間などの道東地方の路線区間だが、札幌から比較的近いところにも、湿原の側を線路が通過する箇所がある。写真の室蘭本線・長万部～静狩間も、そのような路線区間の一つだ。この境界は静狩湿原と呼ばれ、かつては600ヘクタールの広さを誇る国の天然記念物であった。しかし、第2次世界大戦後に開拓事業が優先された結

果、1951年に天然記念物の指定が解除され、湿原の大部分は失われてしまった。僅かに残された湿原には、初夏の頃、エゾカンゾウなどの花が咲き乱れる。その中を函館行き「スーパー北斗」が駆け抜けてゆく。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑥ No.735 平成27年6月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html